

空港の歴史を感じられる場所はあるの？

《60歳代男性》



新千歳空港は、世界一の輸送人員がある新千歳・羽田線をはじめ、

国内外に航空路線が伸びる大きな空港です。千歳のまちは、この空港とともに発展してきたと言っても間違いではないと思います。

しかし、実際に市民が空港の歴史を理解し、感じることできる機会や場所は、あまりないように感じています。そうした場所は、どういったところにあるのでしょうか。



大正15年に当時の村民が自らの発意と多くの労働奉仕でつく

りあげた千歳飛行場が、現在の新千歳空港の原点です。

空港公園（柏台）では、着陸直前や離陸直後の航空機の機体を間近に眺めながら、モニメントや展示物などで当時の村民の偉業を感じることが

できます。また、名水ふれあい公園（蘭越）に隣接する管理棟では、千歳に初めて着陸した「北海第1号機」の模型が展示され、見学すること

ができます。そして空港の歴史や発展は千歳学出前講座で学ぶこともできます。

千歳に縁のある航空機として「ニッポン」号があります。

この航空機は、昭和14年に羽田を出発し、千歳を経由して

アメリカ、ヨーロッパなどを経て羽田に帰還する単機での

世界一周飛行という快挙を達成した名機です。今年はこの

飛行から70周年の節目を迎え、これを記念してパネル展

を開催します。ご来場して新千歳空港の歴史の一端に触れてみてはいかがでしょうか。

●「ニッポン」号千歳飛来70周年記念パネル展

とき 8月24日(月)～28日(金) ところ 市役所1階市民ホール

「空港・基地課空港係」 ☎(24)0467

市の組織には、87種類の課(セクション)があります(平成21年4月1日現在、派遣職員所属を除く)。皆さんは、市役所がどのような「しごと」をしているのかご存じですか？



向陽台支所長
にしむら
西村 稔



東部支所長
ふくなが
福永 政浩



支笏湖支所長
わたなべ
渡辺 敏雄



信頼され役立つ支所を目指します

◎ 支所 [向陽台・東部・支笏湖]

市の窓口は、市民生活に関する届出や申請など、さまざまな手続きの受付をしています。

支所は、本庁舎から離れている地域の方が、こうした手続きを身近なところで行えるようにするために設置しています。市内には、向陽台・東部・支笏湖の3か所の支所があります。

向陽台支所は人口およそ1万人の一般住宅地域にあり、多くの方が手続などに訪れます。また、東部支所は農村地域、支笏湖支所は観光地域にあり、顔なじみの方が多く、農作物の成育や観光客の入込み状況の話をしたり、現地調査をしたりする業務があります。このように支所は、地域により役割も多少変わってきます。

支所では、広い分野の業務を限られた職員で対応しています。そのため、地域の皆さんと連携し、たくさんの支援をいただきながら業務を進めています。

今後も地域に密着し、信頼され、役に立つ窓口になることを目指します。

【お問い合わせは】

- 向陽台支所 ☎(28)6131
- 東部支所 ☎(21)3131
- 支笏湖支所 ☎(25)2004

所有者死亡後の固定資産税はだれが納めるの？



死亡した方名義の土地や家屋にかかる固定資産税は、相続の手続が完了するまでの間は、相続人または1月1日時点で所有している方が納税義務者となります(どちらも市への届出が必要です)。また、相続の手続は、登記されているものは法務局で、されていないものは市の窓口で行います。手続が済んだ翌年度から新所有者に固定資産税を納めていただくこととなります。

【詳細】 税務課家屋係 ☎(24)0168

【ワンポイントメモ】

「ニッポン」号は東京日日新聞社(現在の毎日新聞社)が所有していた航空機で、昭和14年8月26日に羽田飛行場を離陸し、56日間、5万2,860キロメートルにおよぶ太平洋・大西洋横断飛行の後、10月20日に無事羽田に帰還した。



「いまさら、なかなか聞けないわ」ということはありませんか？小さなことでも、正しく理解していただくために、「イマハナ」コーナーでは、皆さんのささやかな疑問にお答えします。